

平成28年度病虫害発生予察予報第6号（9月）

平成28年9月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稻（普通期稲）	いもち病（穂いもち） ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ トビイロウンカ	<u>多(中西)</u> 、少(東、中央、西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東、中央、西) やや少(中西)、少(東、中央、西) <u>多(東)、やや多(中央)</u> 、やや少(中西、西) やや少(中央)、少(東、中西、西)
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少(中央) <u>多(中央)</u> 少(中央) <u>やや多(中央)</u> 少(中央)
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中西、西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(東、中央、中西)</u> 、平年並(西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(東、中西) <u>多(中央)、やや多(中西)</u> 、やや少(東、西) 少(県下全域)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 9 月 1 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 9 月 3 日から 10 月 2 日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は高い確率 60％です。降水量は多い確率 50％です。日照時間は平年並または少ない確率ともに 40％です。

週別の気温は 1 ～ 2 週目は高い確率 60％です。3 ～ 4 週目は高い確率 50％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	20	30	50	
		日照時間	40		40	20

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	30	60	
2 週目		10	30	60	
3 ～ 4 週目		20	30	50	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：9 月 3 日（土）～10 月 2 日（月）

1 週目：9 月 3 日（土）～9 月 9 日（金）

2 週目：9 月 10 日（土）～9 月 16 日（金）

3 ～ 4 週目：9 月 17 日（土）～9 月 30 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：多（中西部）、少（東部、中央部、西部）

根 拠

(1) 8 月の調査では県中西部でのみ発生が見られた。

(2) 9 月の降水量は多めと予想されているが、県下全域で葉いもちは減少傾向にあるため穂いもちへの移行は少なく、現在と同じ状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 本県での発生は確認されていないが、他県では QoI 剤の耐性菌が確認されている。QoI 剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて 1 回以内とする。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：やや多（中西部）、やや少（東部、中央部、西部）

根 拠

(1) 8 月の調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積の多い地域は無く、全般

的に密度も低めであった。

(2) 9月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 近年、本県における発生は見られていないが、本虫は萎縮病を媒介するので発生に注意する。また、出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので注意する。

3) セジロウンカ

予 想 発生量：やや少（中西部）、少（東部、中央部、西部）

根 拠

(1) 8月の調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積の多い地域は無く、全般的に密度も低めであった。

(2) セジロウンカはほ場への定着性が低く、出穂期以降はほ場から離脱するため密度が減少すると考えられる。

対 策

(1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出る可能性があるので注意する。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（東部）、やや多（中央部）、やや少（中西部、西部）

根 拠

(1) 8月の調査では県西部以外で発生が見られた。発生面積は県東部でやや多めであったが、他の地域では少～平年並であった。また、県下全域で密度の高いほ場は見られなかった。

(2) 9月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

5) トビイロウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 8月の調査では県中央部の1ほ場で、長翅型成虫が僅かに見られのみであった。他県でも目立った発生は見られておらず、大きな問題にはならないと考えられる。

対 策

(1) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

(1) 8月の調査では発生面積は少なめ、発病程度はやや低めであった。

(2) 9月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生が多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

(1) 8月の調査では全てのほ場で発生が見られた。発病程度は平年並であったが、7月に比べ病勢の進展が見られた。

(2) 9月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 8月の調査では発病が見られなかったが、9月の降水量は多めと予想されているため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多（中央部）

根 拠

(1) 8月の調査では発生面積は平年並であり、密度が高いほ場も見られなかった。

(2) 9月の降水量は多めと予想されているが、気温もやや下がり、増殖が盛んな時期を迎えるため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 8月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

(1) 8月の調査では県中西部、西部で発生面積が多かったが、発病程度は平年並であった。東部、中央部での発生は見られなかった。

(2) 9月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（東部、中央部、中西部）、平年並（西部）

根 拠

(1) 8月の調査では県下全域で発生が見られた。発病程度が高い地域は見られなかったが、中央部、中西部では全ての調査ほ場で発生が見られた。県東部は発生面積が増加し、やや多めの発生となったが、西部では減少した。

(2) 9月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（東部、中西部）

根 拠

(1) 8月の調査では県中央部、西部で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発病程度とも平年並であった。

(2) 9月の降水量は多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（中西部）、やや少（東部、西部）

根 拠

(1) 8月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部でやや多め、他の地域は平年並であった。密度の高い地域は見られなかった。

(2) 9月の降水量は多めと予想されているが、気温もやや下がり、増殖が盛んな時期を迎えるため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除

を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 8月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

こうち農業ネットサービス※

・携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

①病虫害発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります